

### 第3章 ヤム、キャッサバの振興政策

#### 1. ガーナ

ガーナにおけるヤム、キャッサバの増産計画や産業振興策として、以下のようなプログラムが実施されている。

##### ○西アフリカ農業生産性向上プログラム (WAAPP : West Africa Agricultural Productivity Program)

西アフリカ諸国を対象とした農業の生産性を向上させるプログラムで、西アフリカ経済協力機構 (ECOWAS) の枠組みに基づいて、貧困対策の下に、農業生産性を向上させることが目的である。

このプロジェクトは、国際食糧政策研究所 (IFPRI : International Food Policy Research Institute、ワシントン本部) が主導して行われたもので、農業の生産性を高め、貧困を解決するため、国ごとに特色のある作物を育てる取り組みを行うものである。

第1回目のプロジェクトでは、ガーナ、マリ、セネガルの3ヶ国が対象国となった。実施時期は2007年～2008年までである。各国ごとに異なる農産物が研究対象となり、ガーナでは農業GDPが高い比率を占める塊茎類が研究対象作物となった。その後、コートジボワール、ブルキナファソ、ナイジェリア、ベナン、シエラレオネ、ギニア、リベリアなどが加わり、現在では12国でプログラムが実施されている。

ガーナで得られた塊茎類の研究結果は他のアフリカ諸国にも共有している。また、技術的な支援は、ロンドンの機関や国際熱帯農業研究所 (IITA) が行っている。ガーナ国内では穀物研究所 (CRI) が R&T に関するバイオ・テクノロジー・センターを設立し研究を行っている。

世銀が予算面でも支援している。特に水が必要な場所では灌漑などに関するリサーチ・プログラムを支援している。穀物研究所 (CRI) が実験場所を提供している。キャッサバ、ヤムの他に、スイートポテト、ココヤムも研究対象となっている。

また、Competitive Crops for Grant という支援リサーチ・プログラムもある。さらには、その他にも資金援助をして農民の問題も解決する仕組みも用意している。キャッサバは4つの品種が対象となっているが、ドライキャッサバについても新たに取り組みを開始している。

##### ○塊茎類の改善およびマーケティングプログラム (RTIMP : Root & Tuber Improvement & Marketing Programme)

塊茎類改善プログラム (RTIP : Root & Tuber Improvement Programme) <sup>6</sup>

ヤム、キャッサバなどのバリューチェーンに関する問題を解決するプログラムで、国際農業開発基金 (IFAD : International Fund for Agricultural Development) の支援により、ガーナ政府が実行している政策である。

<sup>6</sup> IFAD, Ghana: Root and Tuber Improvement Programme (RTIP)

[http://www.ifad.org/evaluation/public\\_html/eksyst/doc/prj/region/pa/ghana/gh\\_rtip.htm](http://www.ifad.org/evaluation/public_html/eksyst/doc/prj/region/pa/ghana/gh_rtip.htm)

IFAD, Root and Tuber Improvement and Marketing Programme (RTIMP)

<http://www.fidafrique.net/rubrique155.html>

まず、フェーズ1として塊茎類改善プログラム（以下、RTIP）が1999年～2005年まで実施された。その後のフェーズ2として塊茎類の改善およびマーケティングプログラム（以下、RTIMP）が2007年～2014年まで実施される予定となっている。

RTIP（フェーズ1）は、主にヤム、キャッサバなどイモ類の生産性向上に関わる取り組みが中心であった。プロジェクトの目的は、消費者に対するヤム、キャッサバの安定的な提供、貧困層が多いイモ類生産農家の救済、農業セクターの多様化、小規模農家、加工業者、販売業者などに対する救済などである。

RTIPでは、720,000人以上の小規模農家を対象とし、キャッサバの改良品種の茎の配布を行った。1999年～2002年の間に50の地区で、105,000人の農民が改良品種の提供を受けた。

RTIPがサポートした農村支援プロジェクトの対象となったグループは9,800あるが、そのうち96%が農業従事者、3%が加工業者で、マーケティング従事者は1%未満であった。このように農業支援が中心的なRTIPであったが、大統領令（the President's Special Initiative on Agribusiness/Cassava, (PSI)）により、キャッサバスターチを増産する政策が打ち出されると、RTIPも加工やマーケティングに近い施策も実施されるようになってきた。すなわち、もともと貧困農民層の救済のためにヤムやキャッサバなどのイモ類増産を実施するRTIPの目的がある一方で、政府の政策はキャッサバを安く安定的に加工業者に提供して、スターチやキャッサバ粉を増産し、輸出向けへの展開や小麦の輸入に代替することであるため、両者のスタンスには微妙な食い違いが生じてきた。

他方、2007年から開始されたRTIMP（フェーズ2）では、加工、消費、マーケティングなどバリューチェーンの下流部分にも焦点を当てている。RTIPが農業生産に重点を置いていたのに対して、RTIMPは農業生産と加工やマーケティングなどバリューチェーンの下流部分とのバランスを取ることで、貧困層の収入向上と食糧安全保障に加え、マーケットシステムを構築することを目的としている。また、同分野への投資促進や情報の普及、教育、コミュニティ・キャンペーンなどの施策も実施している。

プログラムの内容は以下の4つの内容となっている。

コンポーネントA：商品のバリューチェーン上での関連付けの強化

コンポーネントB：イモ類の生産性向上支援

コンポーネントC：イモ類の中小業者の加工、ビジネス、マーケティングなどの技術支援

コンポーネントD：コーディネーションと監視、評価

プログラムの資金は2,780万米ドルで、出資比率はIFADが69%、ガーナ政府が14%、パートナー企業や機関が14%などとなっている。

#### ○キャッサバ奨励プロジェクト（CiAVA：Cassava：Adding Value for Africa<sup>7</sup>）

米国主導のキャッサバ振興策で、ビル&メリнда・ゲイツ財団の支援を受けている。ガーナ、タンザニア、ウガンダ、ナイジェリア、マラウイーにおいて、高品質のキャッサバ粉を生産するためのバリューチェーンを発展させ、少なくとも90,000人ほどの女性や社会的弱者層などを救済する目的を掲げるプログラムである。

このプログラムには、①キャッサバの安定供給、②二次加工業者となりうる仲介業者の育成と取りまと

<sup>7</sup> <http://cava.nri.org/>

め、③市場での需要喚起、という3つの柱から成り立っている。

このプロジェクトの内容は、農民、農村におけるキャッサバの一次加工業者の育成を支援し、キャッサバの中間生産品を製造する。その一方で、中小加工業者とパンなどの消費者製品製造業者を結びつけ、輸入小麦の代わりにキャッサバ粉を利用するなどキャッサバの需要拡大を目指すものである。

○食料農業分野における開発政策Ⅱ（FASDEPⅡ：Food and Agriculture Sector Development Policy）

食料農業分野における開発政策Ⅱ（以下、FASDEPⅡ）は、2006年に、ガーナ政府が、ミレニアム開発目標（MDGs:Millennium Development Goals）を達成のため農業分野の所得向上及び、生産性の向上を図るために設定した政策的なフレームワークである。2002年に策定された食料農業分野における開発政策Ⅰ（The First Food and Agriculture Sector Development Policy、以下、FASDEPⅠ）で農業の近代化を図る中で、農業をバリューチェーンと関連付けて捉えるようになったが、4年の歳月の中で修正する必要が生じてきた。そのため、FASDEPⅡとして新たなフレームワークを策定した。FASDEPⅡは、長期的な視点で、食料、農業関係者の利益が確保できるようにするための食料、農業の開発プログラムである。FASDEPⅠとの違いは、安定的なリソースの活用、商品化と成長市場への投入、生産性向上のための科学技術の活用、環境への配慮などがある。

図 13 農業分野における開発政策（FASDEPⅡ）の目的

- ・ 食糧安全保障、緊急時の準備
- ・ 所得の向上
- ・ 競争力の向上と国内および海外市場の統合化
- ・ 土地と環境の安定的な管理体制
- ・ 食糧、農業分野への科学、技術の導入
- ・ 各機関の連携と調整の強化

出典) ガーナ食料農業省

○中期農業分野投資計画 (METASIP : the Medium Term Agriculture Sector Investment Plan)

中期農業分野投資計画 (METASIP) は 2010 年に策定された 2015 年までの中期的な視点に立つ投資プランであり、FASDEP II の実効的な計画という位置づけである。2015 年までに農業分野の GDP を最低 6% 向上させる目標を設定しており、食品と農業に関連する開発投資の計画を 6 つの分野に分けて詳細に目標設定して、予算枠を設けている。また、ECOWAS の農業開発プランとも連携を取った政策となっている。

図 14 中期農業分野投資計画 (METASIP) のプログラム

プログラム 1	食糧安全保障、緊急時の準備
プログラム 2	所得の向上
プログラム 3	競争力の向上と国内および海外市場の統合化
プログラム 4	土地と環境の安定的な管理体制
プログラム 5	食糧、農業分野への科学、技術の導入
プログラム 6	各機関の連携と調整の強化

出典) ガーナ食料農業省

## 2. カメルーン

カメルーンにおけるヤム、キャッサバの増産計画や産業振興策には、以下のようなプログラムがある。

○塊茎類開発国家プログラム (PNDRT : National Programme of Development for Root and Tubers)

このプログラムは農業地方開発省と国際農業開発基金 (IFAD : International Fund for Agricultural Development) の主導するキャッサバの増産計画である。各農村の農業組合を中心にキャッサバの改良品種の配布、農民の教育などを実施している。また、キャッサバ加工品の増産や技術指導も実施している。

○世銀のパイロットプログラム

世銀が主導するキャッサバの加工と国内販売に関する計画。

○キャッサバの加工製品の増産計画

商工会議所 (CCIMA : Cameroon Chamber of Commerce, Industry, Mines and Crafts) が主導するキャッサバの加工工場の設立、加工技術の導入に関する計画。

○塊茎類の生産および加工支援プログラム (the Support programme for the production and transformation of Tuber & Roots)

農業地方開発省の管轄下にある農業商工会議所の主導するヤム、キャッサバの生産増加と加工に関するプログラム。

○カメルーン農業協力プロジェクト (PACA : Programme d'Amélioration de la compétitivité Agricole : Agricultural Competitiveness Project in Cameroon)

2008年に世銀の協力により、農業地方開発省の下で開始されたプロジェクトで、競争力のある農家を育成するための品種改良を推進するものである。現状ではヤム、キャッサバは対象作物に含まれていないが、2012年からキャッサバを対象にすることも検討している。

カメルーン農業協力プロジェクト (以下 PACA) は、農業地方開発省の提案により、世銀が援助したプロジェクトで、カメルーン国内での農産品の競争力を高めることに加え、輸出競争力を付けることも目的としている。

プロジェクトの予算割り振りは、提案された各プロジェクトのビジネスモデルの出来によって決める。生産と競争力を高めるためのマーケティングのプロジェクトが比較的多い。

プロジェクトで支援する内容には、生産から、資金繰り、マネジメント、財務、収穫、貯蔵、組織化、マーケティング、バイヤーとの交渉、契約締結、販売などのキャパシティビルディング (人材教育) などがある。

各プロジェクト名で銀行口座を開き、組合や農家で必要な予算の30%を用意し、70%はPACAが負担する。基本的には農家の自立的な経営を主眼にしたもので、PACAは最初の年だけ支援する。農家の経営などについては監視を行う。